令和５年２月28日

学校だより

３月号

横浜市立美しが丘東小学校
学校長　　藤本　光子

ホームページ　http://www.edu.city.yokohama.jp/es/utsukusigaokahigashi/

子どもの評価

校長　藤本 光子

花壇に咲くパンジーが風に揺れ、春の訪れを待っています。昨年の４月に着任し、美東小の素敵な花壇に心を奪われたのがついこの間のようです。あっという間の一年間でした。

さて、今回は、教師だから味わえる幸せな瞬間、についてお話したいと思います。

教師は、どんなときに幸せを感じると思いますか。子どもの成長が見えたとき、職員で力を合わせて達成感を味わったとき、保護者や地域の方に温かいお言葉をいただいたとき。日々の業務がどんなに大変でも、このような幸せな瞬間に出会えたとき、やはり教師になってよかった、という気持ちになります。

私の幸せな瞬間の一つとして、「子どもに評価される」ということがあります。例えば、今年１年間でいうと、朝会の話の評価です。先月は、２年生の子が「今日の朝会の話、すごかったね。」と言ってくれました。その日の朝会の話は、「進んで取り組む」ということをテーマに、５年生が次年度の新１年生に向けて学校生活の説明動画を作った話をしました。その一部を画像で紹介したので、つまり実際にすごかったのは動画を作った５年生なのですが・・・それでも、心に残ったんだな、とうれしくなり、一日中うきうきしてしまいました。しかし、１年生から６年生までの子どもたち全員の心に響く話をするのは、なかなか難しく、うまく話せなかった日も当然あります。ただ、子どもが「校長先生、おもしろくなかった。」とわざわざ言いにくることはないので、何も反応がない日は、分かりづらかったのかも、と考えて次の話題を吟味します。

これまでの教員人生の中で一番おもしろかったのは、子どもによる手作りの「あゆみ」です。担任をしているときに、２回もらったことがあります。それが非常におもしろく、子どもが自分のどこを評価していたのかがよく分かり、とても参考になりました。中でも驚いたのは、体育の評価です。こう書かれていました。

「外に出て遊ぶことが少ないです。もっと子どもと一緒に遊びましょう。」（評価 C）

外遊びが体育の評価につながるかどうかは別として、当時私は６年の担任で、週に３回子どもと外で遊ぶ時間をとっていました。むしろ、多いのではないかと思っていましたが、それでは足りなかったのです。子どもは何年生であっても、担任に対する期待や愛情がとても大きいと、改めて感じました。

「分かった」「分からない」は、授業の評価
「楽しい」「楽しくない」は、クラスづくりの評価
子どもの声は、教師の評価

子どもの声に耳を傾けることが、教師の一番の力になるはずです。子どもを思って指導するのはもちろん大切なことですが、子どもからも声を出せるような信頼関係を築き、子どもに「安心できる」と評価されるような学校運営を進めていきたいです。